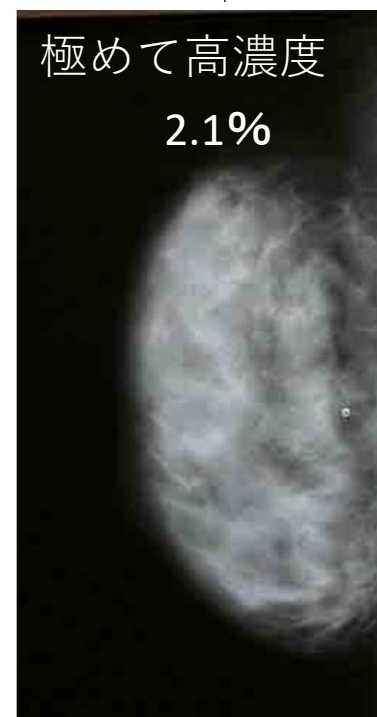
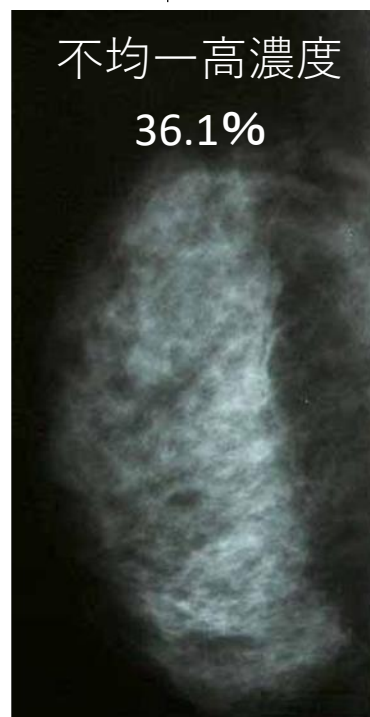


乳がん検診の適切な情報提供に 関する研究

(令和元年度厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業)

- 福井県済生会病院
乳腺外科・女性診療センター
- 笠原善郎

【乳房構成】



高濃度乳房

病変は
隠れにくい

病変の隠れやすさ

病変は
隠れやすい

がん検診の結果通知に関する事項

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針

(平成20年3月31日付け健発第0331058号厚生労働省健康局長通知 ※平成28年2月4日一部改正)

第3 がん検診

5 乳がん検診

(2) 結果の通知

検診の結果については、**精密検査の必要性の有無**を附し、受診者に速やかに通知する。

【別紙】がん検診等実施上の留意事項：

2 乳がん検診

(2) 指導区分等

① 指導区分は、「**要精検**」及び「**精検不要**」とし、それぞれ**次の指導を行う**。

ア「**要精検**」と区分された者 医療機関において精密検査を受診するよう指導する

...

乳房構成に関する情報提供の状況

平成29年3月（*「提言」公表前）

第21回がん検診のあり方に関する検討会（平成29年3月27日）：資料2より

-
- 市町村の13.5%が、がん検診指針の報告項目にない乳房の濃度に関する項目の通知を開始しているが、通知している市町村のうち半数は、その後の対応を受診者に伝えてない
 - 追加の対応を通知している市町村の87%が、まだ科学的根拠（死亡率減少効果）が明らかになっていない乳房超音波検査を追加の検診として推奨、16%が異常や疾病でない高濃度乳房に対して要精密検査扱いとしている
 - 乳房の構成を把握している市町村は31.0%のみ
 - ⇒乳房構成や高濃度乳房に関する十分な理解が進んでおらず、受診者への適切な情報提供が行われていない混乱した状況
-

提 言

- 対策型検診において受診者に乳房の構成（極めて高濃度、不均一高濃度、乳腺散在、脂肪性）を一律に通知することは現時点では時期尚早である。乳房の構成の通知は、今後検討が進み対象者の対応（検査法等）が明示できる体制が整った上で、実施されることが望ましい。
- 乳房の構成は受診者個人の情報であり、受診者への通知を全面的に妨げるものではない。通知するにあたって、市区町村には受診者から正しい理解が得られるような説明・指導とそのための体制整備が求められる。今後、受診者のニーズを踏まえたよりよい通知の方法について、対応を検討していく必要がある。
- 高濃度乳房の実態、乳房超音波検査などの検診方法の効果、高濃度乳房を正しく理解するための方策などを、国および関係各団体は協力して検討して行く必要がある。

*：平成29年3月21日 日本乳癌検診学会・日本乳癌学会・日本乳がん検診精度管理中央機構
対策型乳がん検診における「高濃度乳房」問題の対応に関する提言
<https://www.qabcs.or.jp/archives/001/201703/170321.pdf>

乳がんにおける「高濃度乳房」への対応 について

平成30年5月24日付け 健発0524第1号 厚生労働省健康局長通知

■別添のとおり、厚生労働行政推進調査事業費補助金「乳がん検診における乳房の構成（高濃度乳房を含む）の適切な情報提供に資する研究」班において市町村ががん検診の受診者に対し乳房の構成を通知する際に留意すべき内容が取りまとめられたため、市町村の判断でがん検診の受診者に対し乳房の構成に関する情報を伝える場合に、適切な情報提供を行う観点から、貴管内市町村及び関係団体に対し、周知方願います。

QA集

高濃度乳房について 目次

- Q1 高濃度乳房とは何ですか。
- Q2 日本人における高濃度乳房の割合はどのくらいですか。
- Q3 乳房の構成は、年齢によって変わらないのでしょうか。
- Q4 もし高濃度乳房であつたらどうしたらよいでしょうか。
高濃度乳房は、放置すると乳がんになるのでしょうか。
- Q5 高濃度乳房では乳房超音波検査でがんが多く見つかるようになりました。
住民検診でマンモグラフィに加えて乳房超音波検査をなぜやらないのでしょうか。
- Q6 高濃度乳房の場合、マンモグラフィでがんは全く見つからないのでしょうか。
- Q7 マンモグラフィ検診で異常がないと言われたのですが、しこりを感じようになりました。どうすればよいでしょうか。
- Q8 住民検診において、検診受診者に乳房の構成を一律に知らせていないのは、なぜでしょうか。
- Q9 乳房の構成を通知することの利益（メリット）、不利益（デメリット）を教えてください。

【参考】

- 参考1 がん検診には、どのようなものがありますか。
- 参考2 がん検診の利益（メリット）と不利益（デメリット）について教えてください。
- 参考3 マンモグラフィ検診を受ける以外に、日ごろから何か自分で行うことはありますか。

2

H29年度厚生労働科学特別研究事業「乳がん検診における乳房の構成(高濃度乳房を含む)の適切な情報提供に資する研究」班

検討事項

検討 1：

「高濃度乳房について」（QA集）を周知公布した後の市町村の乳房の構成に関する情報提供の変化（適切な情報提供がなされているか）について、全国の市町村にアンケート調査を実施

検討 2：

乳房の構成の通知を試行し、試行に伴う受診者アンケート調査の分析

乳房の構成の通知に関する実態調査結果 (平成28年度、30年度比較)

- 調査の方法：
 - 平成31年3月に、平成30年度に実施した乳がん検診について、市町村（特別区を含む。n=1724）に対してアンケート調査を実施
 - 平成28年度に厚生労働省健康局がん・疾病対策課が実施したアンケートと比較検討

- 調査の項目：
 1. 乳がん検診においてマンモグラフィを実施しているか
 2. マンモグラフィによる受診者の乳房の構成について、検診実施機関から報告を受けているか
 3. マンモグラフィの乳房の構成を対象者に通知しているか。もしくは通知する予定があるか。
 4. マンモグラフィの乳房の構成を受診者に通知している場合、高濃度乳房の方に対する通知の際に、その後受診者のとるべき対応について奨励していることはあるか。
 5. 高濃度乳房の方に対する乳房の構成の通知の際に、その後の受診者がとるべき対応について推奨していることがある場合、何を推奨しているか。
 6. 平成29年度厚生労働行政推進調査事業補助金厚生労働科学特別研究事業「乳がん検診における乳房の構成（高濃度乳房を含む）の適切な情報提供に資する研究」班の作成した「高濃度乳房について」（QA集）を使用しているか。

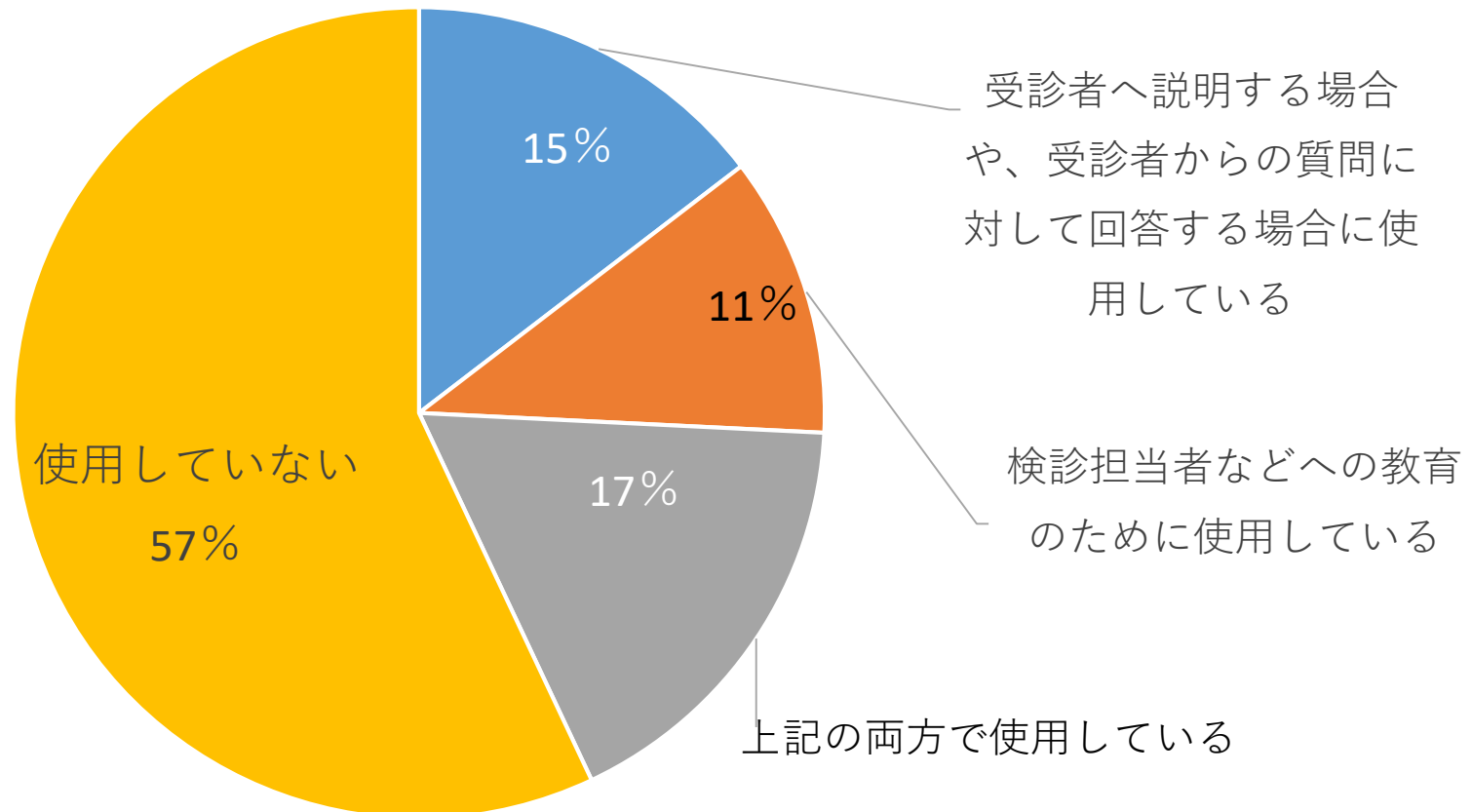
1-5は平成28年度の厚生労働省健康局がん・疾病対策課が実施したアンケートに準じた。
6 は今回新たに加えた質問項目

結果⑥「高濃度乳房について」 (QA集) を使用しているか

QA集の使用状況 (回答数1673のうち、未回答35を除き集計)

使用していない：57%

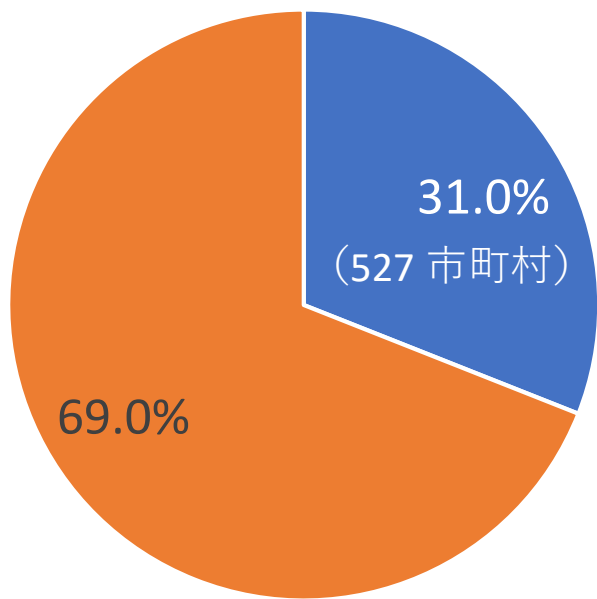
使用している：43%



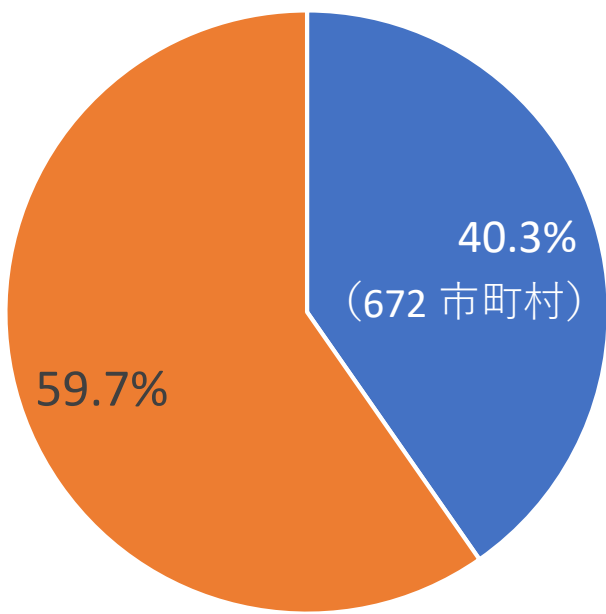
結果② 乳房の構成についての実施機関から市町村への報告

H28年度 回答市町村数：1700

H30年度 回答市町村数：1667



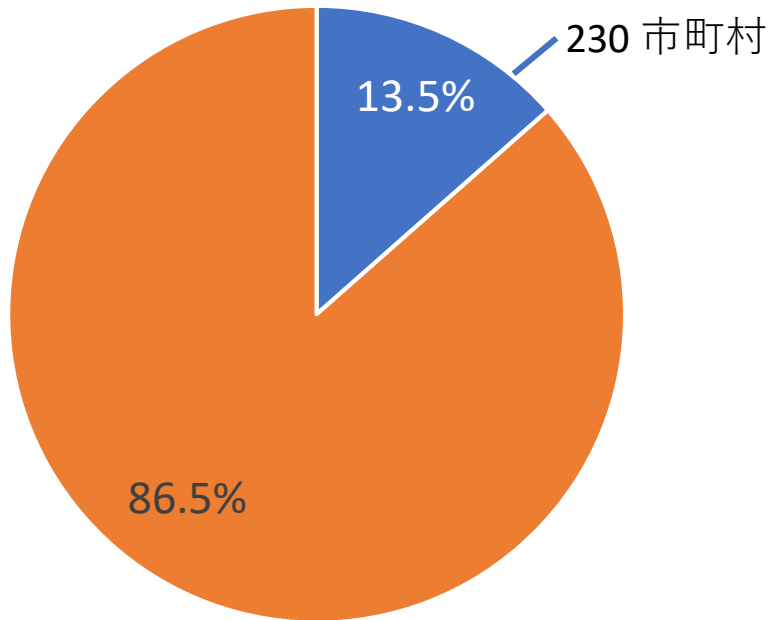
■ 報告を受けている ■ 報告を受けていない



■ 報告を受けている ■ 報告を受けていない

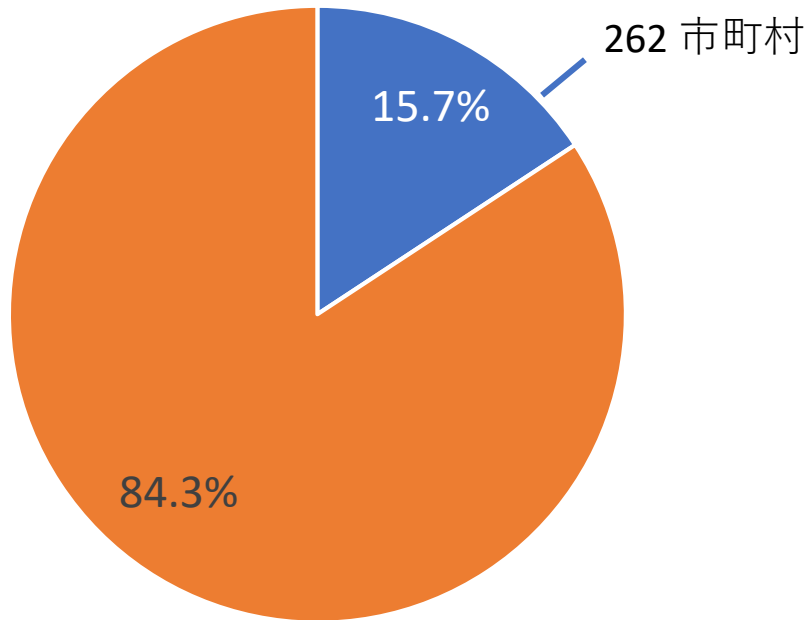
結果③ 乳房の構成の受診者 に対する通知

H28年度 回答市町村数：1700



■ 通知している ■ 通知していない

H30年度 回答市町村数：1664

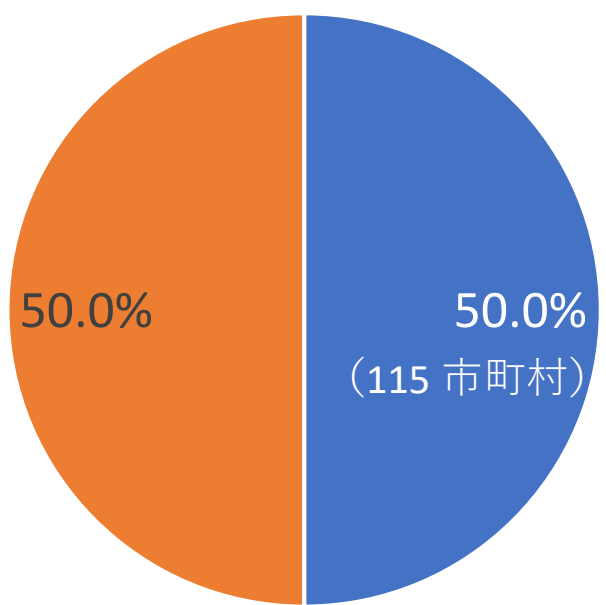


■ 通知している ■ 通知していない

結果④ 通知後の対応

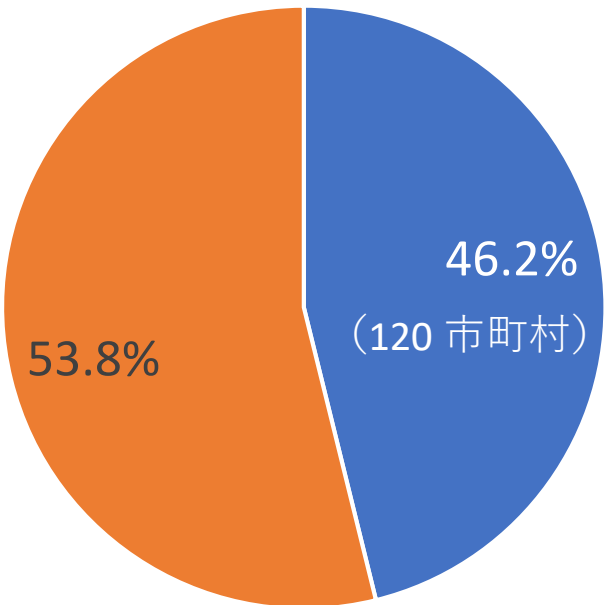
乳房の構成を通知している場合、高濃度乳房の方に対して通知する際に、その後の受診者がとるべき対応について推奨していることはあるか

H28年度 回答市町数：230



■ 推奨あり ■ 推奨なし

H30年度 回答市町村数：260



■ 推奨あり ■ 推奨なし

検討 1 結果⑤ 通知を実施している市町村
が推奨している内容

乳房の構成の通知の際に、その後受診者がとるべき対応について推奨していることがある場合、何を推奨しているか（複数回答可）

	回答市町村： 115	回答市町村： 120
通知を実施している市町村が推奨している推奨する内容	H28年度	H30年度
乳房超音波検査の受診 次回受診時の受診を含む （＊そのうち乳房超音波検査の提示・紹介にとどめるもの）	95	82 (18)
精密検査の受診	18	2
* 定期的な乳がん検診の受診	5	10
再検査の受診	4	0
* 自己触診（セルフチェック）の実施	3	19
* 症状を自覚した際の医療機関の受診	3	22
視触診の受診	1	0
医療機関の受診	1	4
その他		
検診現場での超音波検診の併用		6
* 専門医に相談		10
* 高濃度乳房・偽陰性の説明		18

＊：高濃度乳房について（QA集）で言及している望ましい指導項目

検討 1：結果のまとめ・考察

- 市町村による**QA集**の使用率は**43%**にとどまり、まだ十分には活用されていない。
- 市町村の判断で行っている乳房の構成の通知は**15.7%**の市町村で実施されていてやや増加している。
- 通知後の対応として、**QA集**に盛り込んだ内容に準じた適切な情報提供が増加し、**QA集**を使用する有効性が示唆されたが、まだ通知後の十分適切な情報提供がなされているとは言えない。
- 今後は市町村がその判断で通知をする際は、**QA集**を活用し通知後の対応まで含めた情報提供体制の構築に努める必要がある。

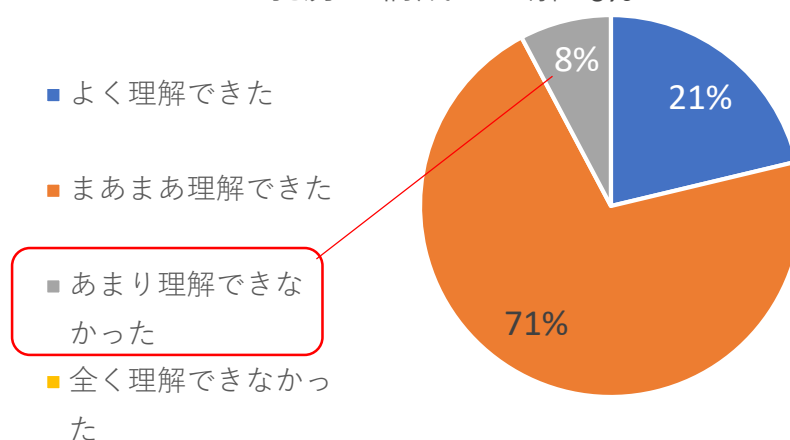
乳房構成の通知の試行とその後の理解や反応

- ・ 個別の面談説明後、通知希望の有無を確認、QA集配布
- ・ 質問窓口の連絡先を明記

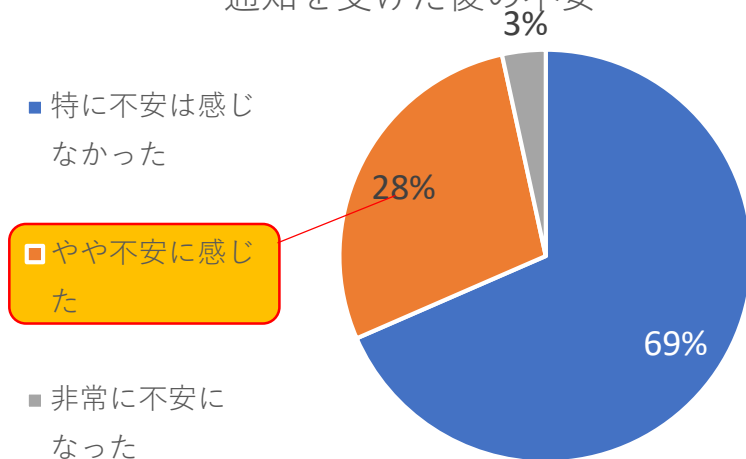
全体で**81%** (591/732人)
が乳房の構成の通知を希望

40歳代	89%
50歳台	81%
60歳代	77%
70以上	73%

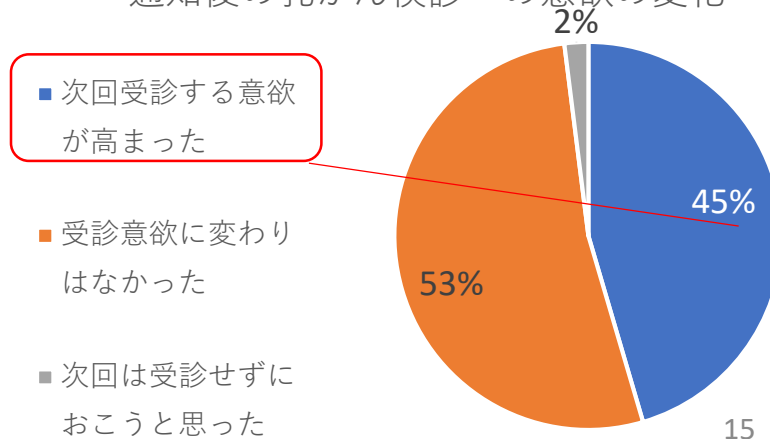
乳房の構成の理解



通知を受けた後の不安



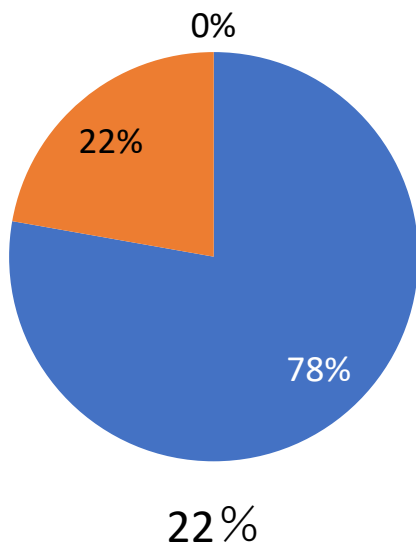
通知後の乳がん検診への意欲の変化



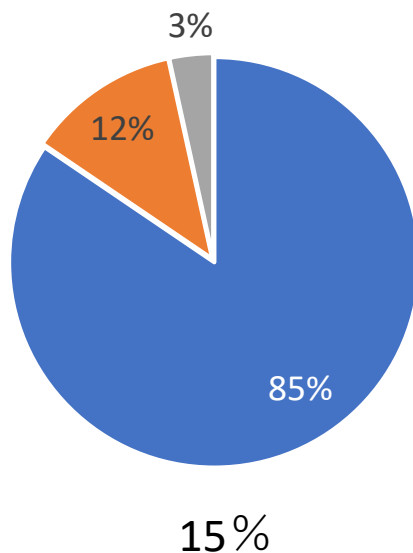
通知を受けた後の不安

- 特に不安は感じなかった
- やや不安に感じた
- 非常に不安になった

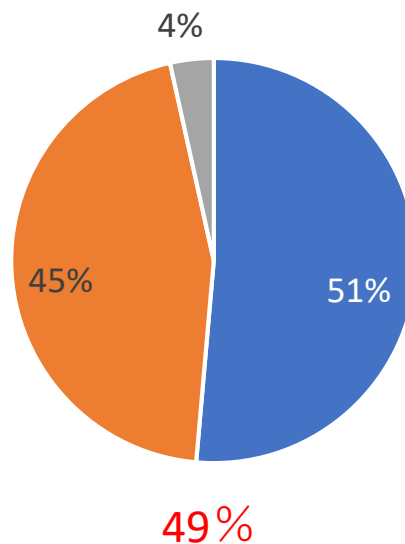
脂肪性乳房



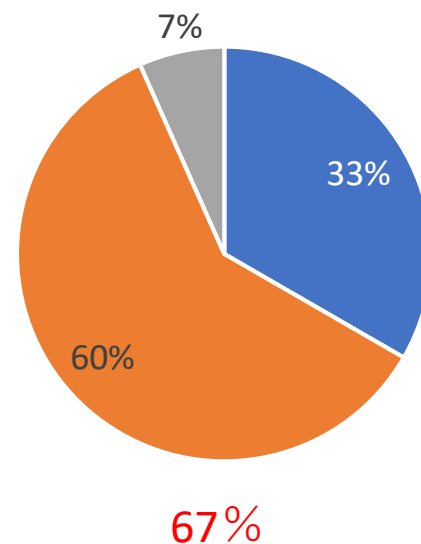
乳腺散在乳房



不均一高濃度乳房



極めて高濃度乳房



不安に感じた者（やや不安に感じた+非常に不安に感じた）の割合（%）

検討 2：結果のまとめ・考察

- 乳房の構成の通知は希望されない方（約 2 割）もいるので事前の意思確認など配慮が必要。
- 個別の説明、質問窓口の設定、QA集の配布など通知後の対応まで含めた情報提供体制が重要。
- 極めて高濃度、不均一高濃度とされた人が不安に感じ、一方乳腺散在、脂肪性とされた人が安心を感じる傾向にある。

乳房の構成に関して情報提供を行った場合の受診者のメリット・デメリット

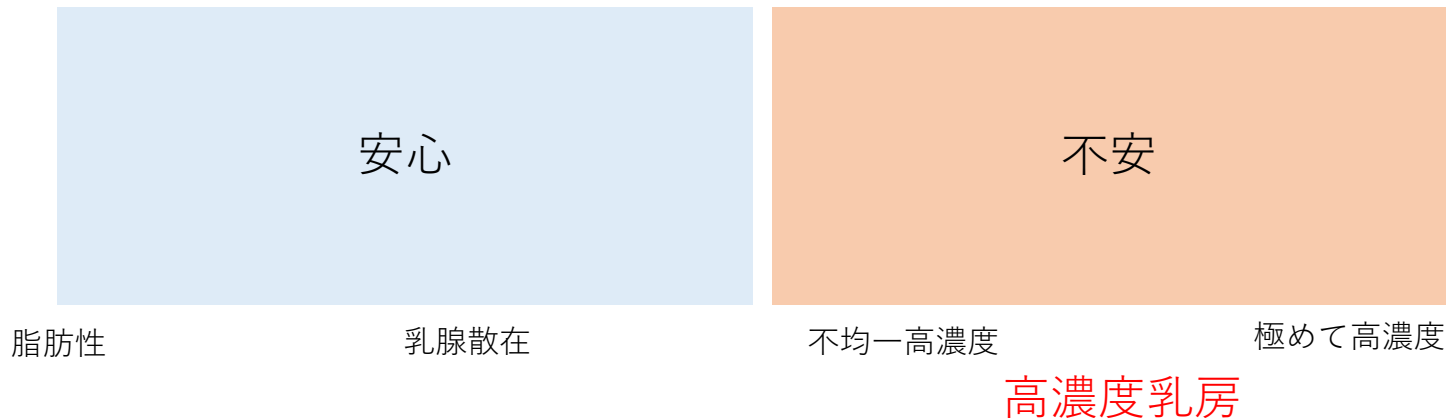
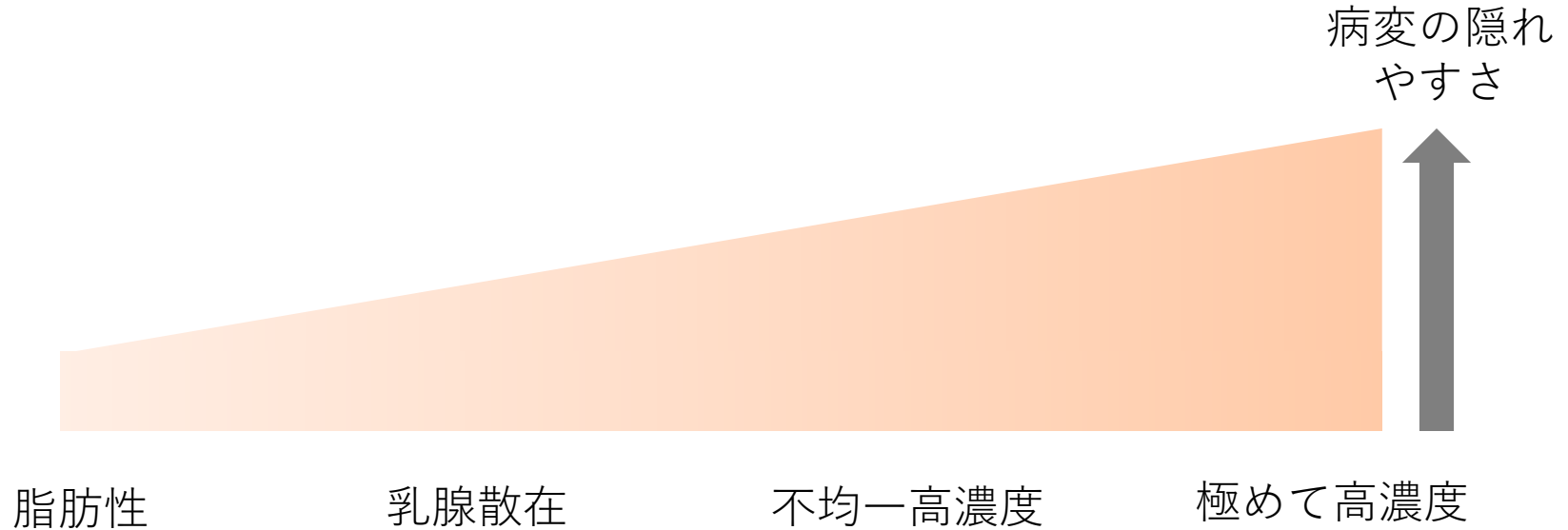
メリット(適切な情報提供)

- 高濃度乳房の意味、病変の隠れやすさなどを正しく判断し、予防行動（breast awareness）を実行する。
- 症状出現時に遅滞なく医療機関を受診する。
- 科学的根拠に基づくがん検診として、隔年検診を継続する。
- 追加の検査の利益と不利益を知り、専門医等と相談しその後の行動につなげる。

デメリット(不適切な情報提供)

- 高濃度乳房の病変の隠れやすさを過剰に意識し、不要な不安、精神的負担を被る。
- 高濃度乳房でなければ乳がんにならない等、誤った認識を持たれ、検診等の予防行動が疎かになる恐れがある。
- 高濃度乳房であることをもって、一律に科学的根拠が明らかではない検診（検査）や保険診療を受診する。
- 追加の検査により、経済的負担や偽陽性の増加、過剰診断などの不利益を被る。

乳房の濃度に関する情報伝達のイメージ



まとめ

- 乳房構成に関する情報提供は現在市町村の判断で行われているが、「高濃度乳房について」（QA集）を参考に、検診提供者の理解を深めるとともに、受診者の理解も得る働きかけが必要である。
- 通知を行う場合は、通知希望の有無を確認の上、高濃度乳房かどうかではなく、乳房の構成（脂肪性、乳腺散在、不均一高濃度、極めて高濃度）を情報提供することが望ましい。
- 通知を受けた受診者がいたずらに不安に陥ることなく適切な行動がとれる体制整備（説明体制、質問窓口、社会資源の整備など）が今後の課題である。
- 乳房構成の判定の精度管理や実態調査、超音波検査の意義などについて、引き続き検討を続ける。